

埼玉県四半期経営動向調査結果について(平成17年1～3月期)

I 調査結果の総括

「県内中小企業の経営動向は、緩やかな回復の動きがみられるものの、足踏み感が強まっている。今後については、先行き不透明感が強いものの、改善する見通しである。」

- 経営者の景況感／ほぼ横ばいだった。
- 売上げ／悪化に転じたものの、来期は改善する見通しである。
- 資金繰り及び採算／悪化したものの、来期は再び改善する見通しである。
- 設備投資／実施率の低下が続き、来期も低下する見通しである。
- その他／ヒアリング調査した企業の状況は、製造業では一部の業種で改善の動きに一服感や停滞感がみられた。
また、百貨店を始めとする小売業では、総じて厳しい状況が続いている。

II 調査要領

(1) 調査方法及び調査対象

(1) アンケート調査

- ・ 製造業 : 900企業中、回答数 625企業 (回答率69.4%)
 - ・ 非製造業※ : 1,300企業中、回答数 922企業 (回答率70.9%)
 - 計 : 2,200企業中、回答数1,547企業 (回答率70.3%)
- ※ 非製造業は建設業、卸売・小売業、飲食店、情報サービス業、医療業、サービス業

(2) ヒアリング調査

- ・ 製造業 : 24企業・組合
- ・ 小売業 : 8企業・商店街
- ・ 情報サービス業 : 3企業
- 計 : 35企業等

(2) 調査対象期間

平成17年1～3月 (調査時期：平成17年3月)

(3) 実施機関

埼玉県産業労働部産業労働政策課及び埼玉県産業労働センター

III 調査結果概要

1 アンケート調査結果の概況

※ DI (景気動向指数: Diffusion Index) とは、例えば「好況」と回答した企業割合から「不況」と回答した企業割合を差し引いた指数で、企業の景況判断等の強弱感の判断に使用する指数のことである。

〈例〉「好況」4.5% 「普通」32.5% 「不況」63.0%
 $DI = 4.5\% - 63.0\% = \blacktriangle 58.5$

(1) 経営者の景況感と今後の景気見通し

「景況感はほぼ横ばいだった。今後の見通しについては、先行き不透明感が強いものの、後退懸念がやや低下した。」

自社業界の景気について、全体では「好況である」とみる企業が3.9%、「不況である」が57.5%で、景況感のDI(「好況である」－「不況である」の企業割合)は▲53.5となり、前期と比較すると0.2ポイントとわずかに上昇し、ほぼ横ばいだった。

業種別にDI値をみると、非製造業は、製造業に比べ依然として低い水準にとどまっている。

〈景況感DI：前期 → 当期 (前年同期)〉

- ・ 全体 : ▲53.7 → ▲53.5 (▲58.5)
- ・ 製造業 : ▲41.0 → ▲43.3 (▲47.5)
- ・ 非製造業 : ▲61.9 → ▲60.5 (▲64.4)

今後の景気見通しについては、「良い方向に向かう」とみる企業がわずかながら増加し、「悪い方向に向かう」とみる企業が減少しており、先行き不透明感が強いものの、後退懸念がやや低下した。

〈「良い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・ 全体 : 5.0% → 6.8%
- ・ 製造業 : 6.6% → 7.7%
- ・ 非製造業 : 4.0% → 6.2%

〈「悪い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全体：31.6% → 25.8%
- ・製造業：28.2% → 19.7%
- ・非製造業：33.7% → 29.9%

(2) 売上げについて

「4期ぶりに悪化に転じたものの、来期は改善する見通しである。」

当期の売上げDIは、製造業、非製造業ともに前期の売上げDIを下回っている。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げDIを上回る見通しである。

〈売上げDI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲6.4 → ▲25.0 (▲17.9) → ▲6.0
- ・製造業：0.6 → ▲24.4 (▲14.8) → 5.5
- ・非製造業：▲10.8 → ▲25.4 (▲19.6) → ▲13.8

(3) 資金繰りについて

「当期は悪化したものの、来期は改善する見通しである。」

当期の資金繰りDIは、製造業では8期ぶりに悪化し、非製造業では2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りDIを上回る見通しである。

〈資金繰りDI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲13.0 → ▲21.4 (▲19.4) → ▲13.7
- ・製造業：▲7.3 → ▲16.1 (▲12.9) → ▲6.0
- ・非製造業：▲16.7 → ▲24.9 (▲22.8) → ▲19.0

(4) 採算について

「当期は悪化したものの、来期は改善する見通しである。」

当期の採算DIは、製造業、非製造業ともに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算DIを上回る見通しである。

〈採算DI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲26.0 → ▲34.8 (▲30.6) → ▲22.2
- ・製造業：▲21.6 → ▲31.5 (▲27.3) → ▲13.3
- ・非製造業：▲28.8 → ▲36.9 (▲32.4) → ▲28.4

(5) 設備投資の動向について

「実施率は、2期連続で低下し、来期も低下する見通しである。」

実施率は、製造業で4期ぶりに低下し、非製造業では2期連続で低下した。

来期については、製造業、非製造業ともに低下する見通しである。

〈設備投資実施率：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：27.7% → 26.9% (27.2%) → 24.9%
- ・製造業：34.5% → 33.2% (26.0%) → 32.4%
- ・非製造業：23.4% → 22.6% (27.9%) → 19.8%

2 ヒアリング調査結果の概況

(1) 製造業

業況は、改善が続いている業種もあるが、鋳鉄物では改善の動きに一服感がみられ、電気機械器具では停滞感が広がっている。また、印刷・出版は当期も不況感の強い状況が続いている。

売上げは、前年同期を上回っている企業が多い。

受注単価は、下がった企業とほとんど変わらない企業がある。

採算性は、原材料価格の上昇などを要因として、悪化している企業が多くなっている。

原材料価格は、鉄関連を始めとして大幅な上昇が続いている。また、一部の原材料については、調達面で懸念が増してきている。

個別品目の受注動向については次のとおりである。

- ・自動車関連は、新長期排ガス規制対応のエンジンなど、総じて堅調である。
- ・射出成形機関連や建設機械関連は海外向けを中心として、引き続き好調である。特に一般機械器具では、半導体製造装置の減少分を自動車関連向けの射出成形機の増加でカバーしている。
- ・ゲーム機向けや医療機器向けは好調さを維持している。
- ・半導体製造装置関連は、メーカーが生産調整しているため減少している企業が多くなっているものの、そろそろ下げ止まるという期待の声が聞かれた。

設備投資については、一般機械器具、輸送用機械器具、電気機械器具及びプラスチック製品で、設備更新やIT投資などを実施した企業が多くみられた。

(2) 小売業

業況は総じて厳しい状況が続いている。

- ・百貨店は、衣料品が大変厳しい状況にあるなど、回復の兆しはみられない。
- ・ディスカウントスーパーは、近隣店の影響や大規模ショッピングセンターによるチラシ攻勢などにより、前年同期より売上げが減少している。
- ・商店街については、わずかに明るい兆しもあるものの、厳しい状況が続いている。

(3) 情報サービス業（ソフトウェア業）

業況はおおむね横ばいで推移している。

- ・ 引き合いは多い。
- ・ データ入力については、この数か月、業務量が極端に減少している。